

平成 28 年 1 月 21 日

「診療報酬の審査の効率化と統一性の確保」についての主な意見

第 40 回から第 42 回の健康・医療ワーキング・グループにおける主な意見は以下の通り。

1. 改革の方向性について

支払基金法を改正し、支部の集約を含む組織体制の抜本的見直しを通じて、コストの削減とより効果的・効率的なサービス提供を実現すべきではないか。

レセプトが電子化されたにも関わらず、支払基金における ICT の活用状況は不十分であることから、支払基金ありきではなくレセプト審査の各業務を誰が担うべきかを含め、審査業務の在り方をゼロベースで検討すべきではないか。

審査委員の確保が困難な支部や専門分野がある現状を踏まえ、従来の各支部での審査体制にこだわることなく、支部の集約やオンライン上で審査を行う仕組みなどを平成 32 年度のシステム刷新に向けて整備する等、抜本的な取り組みをすべきではないか。

2. 審査の在り方について

患者の個別性や医療の裁量の余地は医師が判断するものである一方、そのサポート業務に専属の職員がかかりきりになる必要性があるのかを含め、職員の関与の在り方について見直す余地があるのではないか。

現状は目視で行われているレセプト審査の事務作業について、業務プロセスの簡素化や審査の高度化に対応したフォーマットの見直しなどによりコンピュータ化が可能ではないか。

医師による審査も含め審査全体について、合議の仕組みや事務との連携、セキュリティの確保も含めたインフラなど、ICT を活用したネットワーク環境を整備すれば、支部の集約化や審査の更なる効率化は可能ではないか。

健保組合のレセプトについて、支払基金の審査後に保険者が行う点検を契機とする査定額が査定額全体の約 17% を占めることから、保険者にも相応の事務点検能力があるのではないか。

3 . 拠点の在り方について

高額な医療費のレセプト審査は、今でも1カ所の特別審査委員会で既に行われており、支部を集約しても審査の質は確保できるのではないかと。

現行の医師の審査の前段階の事務は、都道府県ごとである必要はないのではないかと。特に、コンピュータチェックなど人手を要しない作業は、1か所に集約すべきではないかと。

4 . コンピュータチェックの高度化について

産業界ではクラウドコンピューティングのデータ処理をし、AI を使って各事業分野をどう効率的かつ質を高めていくかという流れにあり、レセプト審査においても最先端のICTを活用して、審査の効率化と質の高度化を追求すべきではないかと。

査定において、病名漏れや、検査が抜けているなどのケアレスミスが多く見られることから、医療現場における入力段階でのケアレスミスを防ぐための対策をとり保険請求の前にミスがチェックされるようにすれば、効率化するのではないかと。

そのためには、基金は、コンピュータによる審査基準を統一し、審査において必須となる項目などを、医療機関及び保険者に対して「開示」するべきではないかと。

5 . 審査の統一性の確保について

地域性に過度に配慮し過ぎるのは好ましくなく、国民皆保険の中で、給付の範囲が地域によって異なるという現状が残っており、統一性を確保することが必要ではないかと。

専門的な手術や特殊な病態の治療についての審査は、適切に審査できる審査委員が限られるため、都道府県毎の審査では公平性が保てないのではないかと。

6 . 業務の拡大について

電子化の進展やデータ活用の重要性が増す中、診療報酬に関するものに限定されている支払基金の業務範囲を拡大し、時代のニーズに合致したものに変わっていくべきではないかと。特に、保険者が求めている療養費（柔道整復、鍼灸等）の審査・支払業務などに積極的に取り組むべきではないかと。

業容を拡大し、支払基金の事務費のうち診療報酬部分の比率を低くしていき、審査に係る委託料を下げしていく流れをつくる必要があるのではないか。

7. 事務費やガバナンスの在り方について

レセプトの電子化で、医師による審査委員会以外の事務作業は大幅な効率化ができるはずであるにもかかわらず、各都道府県支部の建物・人・什器備品などの維持コストが事務費の多くを占めており、コスト削減が不十分ではないか。

支払基金の事務費は保険者との民同士の契約による取り決めであるにも関わらず、事務の執行に要する費用を提出する診療報酬請求書の数を基準として負担させるという規定が法律上残されているが、法律で規定する必要はないのではないか。

厚生労働省は、支払基金への監督権限があるにも関わらず、民間法人であることを理由に必ずしも積極的にかかわろうとしていないのではないか。

支払基金における ICT の活用状況は、産業界の流れとはかけ離れており、現体制のままでは問題は解決せず、何らかのガバナンス上の工夫が必要ではないか。

以上